

# 高山の多様な動物たちをとらえる

堀田昌伸・尾関雅章

「高山」というと、みなさんはどんなイメージをもっていますか。

とても厳しい環境、限られた生きものしか住めないところ、鳥だとライチョウ、ほ乳類だとカモシカぐらいしか住んでいないのでは？と思っている方も多いのではないのでしょうか。

でも最近の新聞やテレビのニュースをみているとそうでもないように思えます。南アルプスでは、ニホンジカがお花畑の植物を食べつくし、あとにはマルバダケブキやバイケイソウ、トリカブトなどニホンジカが好まない植物しか残っていない写真や映像を見ます。実際に南アルプスに行くとそんな光景に出会います。最近では、北アルプスの山麓でもニホンジカが確認され始めています。また、数年前から乗鞍岳ではイノシシの出没が相次ぎ、高山植物を掘り起こす被害が話題になっています。

研究所では、今年度から3ヶ年の計画で「高山帯における生態系モニタリングの推進に関する調査研究」を始めました。ニホンジカなど野生動物がどの程度高山帯を利用しているのか、地球温暖化で高山帯の残雪や植生がどのように変化するか、そのような問題に対応するために長期的にモニタリングしていくため、モニタリングサイトの構築や手法の検討を行います。

モニタリング手法の一つとして、赤外線センサーカメラがあります。北アルプス後立山連峰の爺ヶ岳・岩小屋沢岳では、長野県等が2007年、2011年、2012年とセンサーカメラではほ乳類相や鳥類相を把握してきました。そのサイトを研究所が引き継ぐかたちで、今年度からモニターしています。8月28日現在、ほ乳類7種、鳥類9種が確認されています(表1)。ニホンザル(写真1)が最も多く確



写真1 センサーカメラがとらえたニホンザル

認され、519枚も撮影されました。今、問題になっているニホンジカ(写真2)についても、はじめてセンサーカメラで捕らえることができました。今後、ほかの山岳でもセンサーカメラの設置を進め、高山帯での動物たちの様子をモニターしていきたいと考えています。



写真2 センサーカメラがとらえたニホンジカ雄若齢個体

表1 2013年6月から8月までにセンサーカメラで確認した種と撮影枚数

種名	撮影地点								合計
	A	B	C	D	E	F	G	H	
ニホンザル	51	61	205	74	37	73	9	9	519
キツネ					10	2	15	1	28
ツキノワグマ				3	1	1			5
テン	1	7		1		3		2	14
ニホンジカ						1			1
カモシカ						3	2		5
ニホンノウサギ				1	11	1		17	30
ライチョウ				12	5				17
ヤマドリ							4		4
アマツバメ	1		3	6	8				18
ノスリ			1						1
ホシガラス				2				1	3
ハシブトガラス					1				1
ルリビタキ		1					1		2
カヤクグリ	1	1							2
ビンズイ				4					4
不明		1	4	13		1	1		20
合計	54	71	213	116	73	85	32	30	674

(注) 撮影枚数であり、実際の個体数ではない。